

学識経験者による意見

◎はじめに

本市は、平成13年に潮来町・牛堀町が合併し、よりよいまちづくりのため、市総合計画等により多くの施策の推進をしてきました。

来年度からスタートする第7次潮来市総合計画や潮来市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略等を軸に市行政に携わる者が常に意識をおき、熱意と信念をもって業務に臨むか否かは、市の将来を大きく左右するものと考えます。

その業務・事業は、各計画等を指標とし、計画（P）・実行、実施（D）・評価（C）・改善（A）により検証をしなければならないと考えます。また、外部評価により検証することは不可欠と考えます。

【教育委員会】

教育委員選任が、平成29年度より保護者・市民からも選任することにより、旧態依然の教員経験者や学識経験者の専門的な視点に加え、子育て中の親の目線や生涯学習を享受する立場の視点からも本市の教育に関する基本的施策等を協議・審議を行うことは今後の教育推進の期待と可能性を感じます。

教育委員会活動においては、定例会等が13回開催、議案議決32件・報告承認9件と多様な案件について審議しています。その他の活動は、学校訪問にとどまらず、各種市民行事（児童生徒・青少年参加型）にも年間47日参加しており敬意を表します。

児童生徒の教育が学校施設において教員だけで行われるのではなく、多種の施設・環境や地域の人々においても実行されるものと考えれば、委員諸氏のあらゆる機会や場において参加参観することは、やがて本市を背負う児童生徒が、本市の教育目標に沿って成長しているか、学校（職員）及び関係者が適切に指導対応できているかを判断するに際して欠くべからざることと思量します。

学校訪問については、教育委員と議会教育福祉経済委員会と合同で実施されており、「観て、知って」いただくことは重要なことであり、的確な評価・助言を期待するものであります。

また、本市の教育行政を推進するための基本指針である「潮来市教育大綱」に沿うように実施期間である平成30年度までに5つの施策《学校教育の充実、子ども・若者の育成支援、生涯学習の推進、スポーツ・レクリエーションの推進、地域文化の推進》の達成に向け、引き続き取り組み願います。

なお、第7次総合計画の実施期に入っても、第6次実施期から継続しつつも今後の社会情勢や教育環境等の変化を踏まえ、状況に応じた施策、所謂年度ごとの教育行政目標の見直しを願います。

「人材」は、例えるならば「人財」とも置き換えられ、学校教育や社会教育の現場におい

ては、教職員や社会教育職員の勤務環境を整備することによって労働時間の短縮を図ることも肝要です。

また、引き続き、2019茨城国体、2020東京オリンピックパラリンピックに向けた機運醸成の推進を願います。

【学校教育関係】

市の財政状況が厳しい状況下において、教職員の加配や非常勤講師、支援員派遣等の諸施策整備に努め、児童生徒の学力実態に即応した授業の実践、さらに就学支援相談員を配置し、就学アドバイスや児童生徒個々の教育ニーズの把握に努めることは、適正かつ重要度から一層望まれるものであります。

○教育支援センター

通級者への指導・支援、来所・電話等による「教育相談・カウンセリング」、各中学校での支援員による「適応支援」など評価できます。しかし、センターに来所・通級できない児童生徒、保護者等多く存在することを考えると、ナーバスで困難性も予想されるところであります。児童生徒や保護者が気軽に相談しやすい環境の構築や保護者・児童生徒への周知を第一とした行政、センター、学校が連携した更なる対応が待たれます。

○小学校及び中学校

市の厳しい財政状況下において、平成29年度小学校費決算203百万円超、中学校費決算額174百万円超と教育予算確保に対する熱意とご苦勞が伺えます。

管理備品や教材備品は各学校に均等配分に努め、中学校教員用コンピューター配置事業等の施設整備においては、緊急性を最優先とし、各学校のバランスを考慮して整備されていることは評価できます。

今後も、児童生徒数においてのみ整備優先順位が決定されることのないようお願いいたします。

就学援助においては、一層の配慮と適正な実施が望まれます。

○学校図書

平成27年度から市立図書館支援事業が開始され、学校図書の蔵書構成のデータベース化による一元管理や貸出、返却、検索がシステム化され、引き続き図書館と連携した運用・充実に努め願います。結節するものとして、朝読・家読推進に繋がることを期待します。

蔵書整備においては、小学校1,253冊、中学校1,300冊と増冊されており、一層の図書費増額をお願いするとともに、是非、計画的な学校司書の配置等により、教科資料や「読みたい本」「読みやすい本」などの優良図書の選書・収集、児童生徒への読書相談に応じる体制を整え願います。

情報化社会にあり、その必要度はさらに高まることを考慮し、より一層の充実を進めてください。

○学校給食

健康都市宣言以来、市民の健康を第一に考える本市として、学校給食はその根底を担うものと考えます。

職員数、給食数等において、適正に運営されていると評価できます。学校及び保護者との連携を深め、摂食における考えや習慣は将来の食生活に大きく関わることを考慮し、食育の重要性とその指導の充実に取り組まれることをお願いします。

「学校で美味しい潮来野菜を食べたい事業」は、食育に対する新たな取り組みとして、傑出する啓発事業として評価します。

また、啓発資料の配布や学校（園）訪問指導についても、要望・意見に傾聴して進めてください。

【生涯学習関係】

潮来市教育大綱に掲げる基本施策を踏まえ、平成29年度教育行政目標に標榜する生涯学習推進事業、平成31年度に開催されるいきいき茨城ゆめ国体への機運醸成事業、多様な学習機会の提供と健康をキーワードとしたスポーツ・レクリエーション活動、芸術・文化活動の取り組みが実践されています。

学習及びスポーツ等については、公民館等において様々な事業を実施され、老若男女を問わず活動が展開されていることは評価できます。

しかし、事業実践に偏りと一過性にとどまっている事業が見受けられます。継続性の重要性を鑑みて、事業効果の総括と市総合計画の実施期間と比例していく中長期的かつ具体的な事業計画を立案ください。

○放課後子ども教室事業・家庭教育支援事業・学習支援事業

児童だけでなく保護者も含めた事業であり、望ましい放課後活動・家庭教育の充実にも繋がるすばらしい事業であると思います。この事業が中・高校生の学校教育充実に直結し、飛躍した将来の潮来市を決定すると信じます。

放課後子ども教室事業は、各小学校区で月に1回程度の実施ですが、参加する児童も多く推進員の方は大変と思われそうですが、今後もぜひ継続していただき、月2回程度実施していただきたいと思います。

平成29年度から開始した学習支援事業の「まなびルーム」は、今日の課題解決に適した学習支援としてますますの充実を願います。

○水郷まちかどギャラリー管理事業

平成18年度から指定管理者制度の導入によって、NPO 法人水美研の円滑な運営がなされ10年が過ぎました。潮来市内外の方々の作品を幅広く展示しており、身近な市民の芸術作品鑑賞の機会を担っていただいています。

開館10年を機に鹿行地域の芸術・文化の拠点づくりとして、展示を主とするギャラリーから美術品の収集・所蔵の性質も持ち合わせる美術館（博物館）建設構想が望まれます。

○文化財保護事業

潮来市内には、国指定1件・県指定30件・市指定90件の数多くの貴重な文化財があり、文化財保護審議委員が定期的な巡視を行い、現状把握に努めていますが、軽微な保護対策に限られています。この現状把握を裏付けとした文化財保護費の予算確保と指定文化財の改修費用と長期間改修に類する大規模な保護・改修事業等については、指定文化財所有者・団体や県文化課などと協議しつつ、「文化財保護計画」を策定することを最優先に望みます。

○人権教育事業

基本的人権の精神を高め、心豊かな人権意識を養い、市民一人ひとりが自分自身の問題として正しく理解するとともに、人権意識の高揚を図ることは大変大切なことであると思います。人権教育研修会の開催、「こころのかけ橋」の発行、人権作品展など児童生徒や市民にとって大変有意義であると考えます。

【各種団体活動支援】

文化諸団体の活動については、潮来市文化協会や水郷まちかどギャラリーが連携して、市民の芸術・文化に対する欲求及び享受を満たす役割を担っています。

それぞれの構成員一人ひとりの意識と意欲が向上することが望ましく、事業実施のみに専念することのないよう指導助言をお願いいたします。

また、段階的、計画的にその活動拠点となる芸術・文化施設の整備をお願いします。

【スポーツ振興関係】

ボート競技を代表とする各種スポーツ事業については、運営に携わる方々のフットワークもよく、その実行力は評価できるところです。いよいよ迫る「いきいき茨城ゆめ国体2019」事業にますますの熱意と展望に期待をします。

指定管理者制度を活用している市民プールについては、事業内容等の詳細を提示することを願います。

○イタコシティレガッタ・関東中学生選手権競漕大会

第39回イタコシティレガッタについては、98クルー565名、第8回関東中学生競漕

大会は13クルー37名の参加があり、来る茨城国体開催に向けて、市民へのPRを通して、水郷潮来を象徴するボート競技の活性化を進めていただきたいと思います。

○国体推進事業

来年に迫る「いきいき茨城ゆめ国体2019」について、本市はボート・トライアスロン・水泳（オープンウォータースイミング）の3競技を開催します。引き続き、実行委員会を中心に競技運営はもとより、競技会場の整備や市民運動をすすめ、国体成功への機運醸成を期待します。

○学校施設開放事業

夜間、休日等を利用して学校部活動外に学校の体育施設を市民に開放し、114団体、1,792人の利用の成果は、スポーツやレクリエーションの場として活用することで健康増進や親睦・交流のために意義深いことと評価します。

○市民スポーツ大会

市民の体力づくりを目指して、毎年春季・秋季に開催し、全14競技、1,908人（春季870人・秋季1,038人）の参加人数は、市民がスポーツに親しむ機会の醸成が定着化していると言えます。スローガンである「市民一人1スポーツ」をより一層推進願います。

○グラウンドゴルフ大会・市民ゴルフ大会

生涯スポーツの一環として、地域の人たちがスポーツを楽しみ、親睦交流をすることによって、明るいまちづくりに繋がるものと思われれます。

多くの方が参加できるようにしていることも評価できます。健康づくりのため、さらに多くの市民が参加することを望みます。

○スポーツ教室事業

市体育協会各部を中心に、市民の健康づくりを目指した各種スポーツ教室の開催は、スポーツに親しむ機会の導入として良い事業であります。8種目813名の参加は素晴らしく、今後も多くの市民が参加できるように創意工夫をしていただきたいと思います。

○潮来市立市民プール

他のスポーツと同様に市民の健康づくりのための施設として、20,524人（前川市民プール19,970人、かすみ市民プール554人）が利用され、競技スポーツとしても健康維持のスポーツとしても効果的です。

また、費用対効果面で捉えると、市民プールの運営と併せて学校教育の水泳授業に利用することで効率よく合理的に運営されています。

【公民館関係】

多様化する生涯学習・カルチャーセンターとして利用されており、行政・民間・学校等の会議や研修の場として地域コミュニケーション活動推進にもつながり、市民活動の拠点となっています。

また、各種講座は趣味・教養・健康等をテーマに多くの市民活動が得られ、「学び・集い・交流・グループ養成」が定着しており評価できます。

○中央公民館

「新成人のつどい」における参加者が247人の出席で該当者の84.3%（前年度81.6%）であり、素晴らしいと評価できます。この式典は、未来を担う若者が「地域・我が街」を意識する絶好の機会であり、何十年後にも思い出の残る日となるようさらに工夫願いたい。

○地区公民館

各地区公民館活動においても、素晴らしいリーダーの存在により事業展開がなされており評価できます。今後も、自主性や地域力を高めることを念頭におきながら取り組んでいきたいと思えます。

地区公民館の利用者は多く、活発な事業展開をしていることが見受けられます。特に、潮来公民館での潮来あやめ寄席については、毎年開催され事業の定着化がされており市民の楽しみにもなっていると思われま。

また、さくらまつり・親子ふれあい交流会・三世代交流会・ダンボールハウス作り・野外遊びの広場等、地域の特色ある事業を行っており、引き続き推進をしていただきたいと思います。

地区公民館主催で行われている市民運動会は、健康づくりと親睦を兼ねて実施され、地域のコミュニティ育成に欠かせない事業ですので継続していただきたい。

【図書館事業】

昨今、人々の活字離れ・本離れの著しい中、市立図書館においては来館者数196,708人・貸出冊数326,491冊であり、驚嘆に値し大変素晴らしい施設です。

蔵書数、CD・DVD等の視聴覚資料の充実や電子図書館サービスの充実によって、各家庭における情報収集機能の充実や自らが読んで聞かせる等、教育力の向上に繋がることと推察されます。

特に、学校支援としている「学校巡回貸出事業」は、児童生徒が多くの本に触れ読書習慣の定着に直結する画期的な事業です。継続はもちろんのこと更なる強化を期待します。

市立図書館が、知識のひろば・情報のひろば・文化のひろば・地域のひろばとなり、市民の憩い、くつろぎ、人が集まる交流の場の拠点としてますます発展することを望みます。

○開館日数・来館者数・貸出・利用登録

開館日数約337日、利用時間9時30分～午後7時と利便性が向上しています。来館者も順調に伸びている傾向にあり、今後の継続した来館を促すために、魅力ある蔵書構築と事業サービス=生涯学習と個人の課題解決に資するビジネス支援等の提供を要望します。

貸出冊数も微増傾向にあり、先の学校図書館支援事業や学校巡回貸出事業の成果と思われる高く評価します。今後、未利用者及び非登録者への利用推進策を望みます。

○予約・リクエスト・レファレンスサービス

予約件数についてはやや減少し、一方リクエスト件数は増加、レファレンスはやや微増傾向にあります。特に多いのは、郷土に関する資料であり、情報のひろばの役割としての情報提供が求められています。

○学校図書との連携

教科資料や読みたい本・読ませたい本・読みやすい本、朝読・家読に繋げる優良図書の選書・収集、児童生徒への読書相談に応じる体制の整備を望みます。

○図書費及び蔵書計画

今後の利用活性のため、図書購入費増額と、より綿密な選書計画及び中長期的な選書方針の策定を望みます。

◎終わりに

住みよい街・住みたい街・心地よい街・自慢できる街にするには、市民一人ひとりの意識と行動が重要となり、行政が担う役割も大きいと思われれます。各種計画等を十分に理解・認識し、外から本市を見る、考える意識を持って事業推進をしていただきたいと思います。

また、将来を見据えるべきとして、教育への産学官連携を導入し、協力・共同を進めことを期待します。

事業評価委員

教育支援センター長 石井秀実

学識経験者 志村俊男